



中央加振法による高温下での振動減衰測定

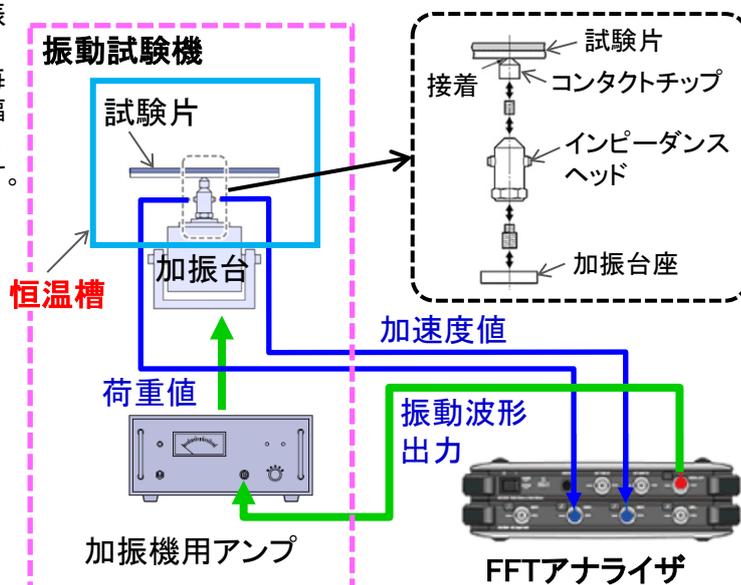
材料の減衰特性の温度依存性が評価できます。

試験の概要

自動車や空調機器等の不要な振動を低減するため、防振材料の利用開発が行われています。本装置は、恒温槽を有する振動試験機を用い、試験温度毎に中央加振法により周波数応答関数を測定します。半値幅法により材料の損失係数または減衰比を求めます。試験温度 -40°C ~ $+120^{\circ}\text{C}$ の範囲で減衰特性を評価できます。



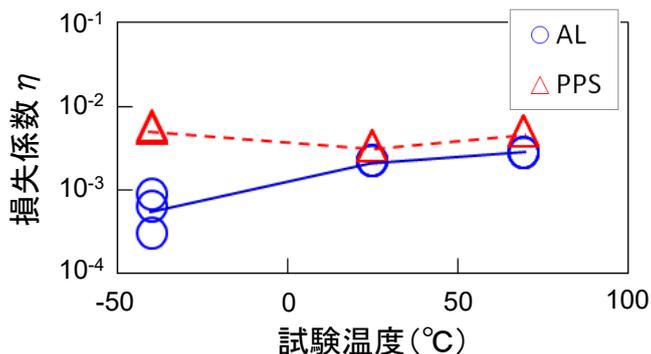
振動試験装置の外観



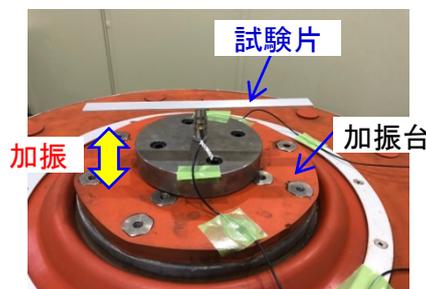
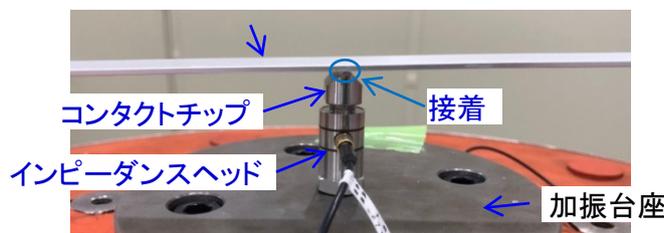
減衰特性評価試験システムの概要

試験例

- ・供試材料 : アルミニウム2021, 樹脂材PPS
- ・試験片サイズ : $t2\text{mm} \times W20\text{mm} \times L250\text{mm}$
- ・試験温度 : -40°C , 25°C , 70°C



各材料の減衰特性の温度依存性



- JIS G 0602: 制振鋼板の振動減衰特性試験方法、JIS K 7391: 非拘束形制振複合はりの振動減衰特性試験方法に準拠した試験が可能です。
- 当社では、吊り下げ打撃法による振動減衰測定、実験モード解析とFEM解析による振動特性評価なども承っておりますのでお気軽にお問い合わせください。



JFE テクノリサーチ 株式会社

<https://www.jfe-tec.co.jp>

0120-643-777

Copyright ©2019 JFE Techno-Research Corporation. All Rights Reserved. 本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい。